

情報交換会\*意見交換まとめ(全体に共有したいことをまとめた内容のものです。)

仙台会場(参加者33名 A~Gグループ)

テーマ①「協議体の進め方や内容について」

・協議体のテーマや進行の工夫、活用方法 等

Aグループ

- ・協議体の中に研修委員がある。テーマを決めており、認知症をテーマに実施。オンライン講話あり。
- ・区長や民生委員が協議体のメンバー。
- ・買い物支援を核に、企業や地域の高齢者それぞれの地域貢献活動について話し合った。
- ・1層圏域は年3回の協議体実施が目標。
- ・1層協議体では座談会を行っている。
- ・何が地域で必要かについて、アンケートを実施し600人から回答あり。⇒近所関係の希薄、免許返納後の生活が課題。
- ・地域住民へアンケートをとり、ごみ出しについてテーマが挙がった。⇒ヘルパー用ゴミ出しの設置に繋がった。

Bグループ

- ・協議体にてスーパーマーケットと地域をつなぐ。(1回目:スーパーが地域に対して行っていることの情報収集。2回目:介護保険事業所の声を聞く。3回目:マッチング。スーパーは地域貢献。福祉サービスは作品展示。)
- ・スーパー側が認知症や地域密着のことをある程度知っている。
- ・見守りをテーマに協議体で話し合い、ゆるやかな見守りリーフレットの作成に至った。

Dグループ

- ・包括がテーマを決めて(例:オレオレ詐欺、虐待など)講義と話し合いを行うことを協議体としている。理想は、課題に対して解決策まで持っていく話し合いがしたい。
- ・ゴミ出しをテーマに協議体で話し合っている。市の事業として進められるようにしている。
- ・情報共有で終わらない会議がしたい。
- ・民生委員定例会を2層協議体に位置づけられないか考えている。

Fグループ

- ・意見交換会でデマンドの活用について話が出て、デマンドツアーを実施。町づくり政策課も入る。
- ・ゆるやかな見守りをテーマに協議体を開催。今年度リーフレットを作成。

テーマ②「関係機関との連携について」

・他事業や各種団体、他部局、民間企業との連携 等

Eグループ

- ・市町村の担当職員とも気軽に連携・連絡できる体制がある。前任の担当者とも気軽に相談できるため、良好な関係を築けている。⇒組織的にやるものではないという意識がある。
- ・複数コーディネーターがいる中で、コーディネーター間での連携があと一步と感じるところがある。
- ・教育委員会なども巻き込みながら、多世代へのアプローチをしている。
- ・他事業を持っていることで、地域と繋がりやすくなる側面がある一方で、事務的な兼ね合いで地域に出にくい面もある。
- ・実績で評価していく事業でもあるため、数字を求めすぎた結果動きにくさが生じることもある。

Gグループ

- ・セブチ銀行、ゆうちょ銀行が地域ケア会議に参加してくれる。⇒企業としてできることを情報提供。
- ・各種コンビニ⇒相互にアプローチがあり、①詐欺防止に繋がったケース、②(まだ現実には至っていないが)サポーター養成講座や買い物支援への結びつけ
- ・地域の企業(ドラッグストアやスーパー)を協議体に呼び、高齢者目線で配慮があるとよい部分を伝えた。

テーマ③「地域資源とのマッチングについて」

・支援ニーズと多様な活動のマッチングの実践 等

Bグループ

- ・認知症地域支援推進員の研修。認知症サポーター養成講座を実施し、認知症の理解を企業に促す。

Gグループ

- ・移動支援がテーマになっている市町村多い。地域特性によって差が大きい。担い手不足、担い手の高齢化。⇒マッチングの具体的な実践までには至っていないと感じている。

#### テーマ④「今、力を入れて取り組んでいること」

・協議体でこんな取組をしている ・集めた地域資源を一覧にして、関係者に周知している ・今後の展望 等

##### Aグループ

- ・事業を行うときの成果は何か。やること自体が目的とならないように。
- ・ケアマネや支援者向けの研修会を実施し、支援者から足並みを揃えている。(次年度は圏域毎に実施予定)
- ・2層協議体から1層協議体に課題が上がる仕組みづくり。

##### Bグループ

- ・地域資源シートを今後一般公開していきたい。更新と再調査に時間がかかる。
- ・地域ワンダー(年8~10回協議体)。各関係機関、企業、様々な団体のPRの場所。

##### Cグループ

- ・集めた情報資源をどのように発信しているか?⇒広報誌「おらほの社会資源」発行。お宝発表会での周知。
- ・関係性の構築。お互いに助け合える関係性。⇒コーディネーターとしての周知はまだ足りないかもしれないが、包括の窓口としては機能できている。

##### Dグループ

- ・高齢者の集まりや団体を見かけたら、積極的に声をかけて何をしていたのか聞く。
- ・地域で元気に活動を引っ張ってってくれるような人を探したい。
- ・社協と行政が月に1回、顔を合わせて意見交換し、風通しがよくなるようにしている。
- ・認知症カフェの立ち上げ。

##### Eグループ

- ・キッチンカーを活用して、地域に入っている。
- ・お宝探しなどを通じて得た情報を整理している。
- ・既存の地域ケア会議を活用した取組み。
- ・多世代間の交流に力を入れている。腰の重い親世代を巻き込むためにも、小中学生に焦点を当てながら。
- ・お宝発表会の開催に向けた取組み。コロナ禍からのスタートで地区の実情把握が進みにくいことがあったが、コロナ明けからは市町村事業などを通じて、コミュニティの把握に努めている。
- ・地域の意見交換会を通じて、各地区の課題や強みの把握に努めている。

##### Fグループ

- ・包括、ケアマネ向けの研修会を開催予定。地道に説明していく。

#### 【その他意見等】

##### Bグループ

- ・年明け頃に地域資源シートを公開する予定。包括から情報収集中。
- ・生活支援のサービス、サロン等のリーフレット。
- ・地域カルテを毎年更新(情報の健康診断)

##### Cグループ

- ・資源の見える化で悩んでいる。発信するにも、報告書の作成など提出書類が多くて大変。
- ・世代交代のタイミングは必ずあり、長く関わることでコーディネートする機会がきつとくる。